

### 3.2 一般向け説明会

SDGs を踏まえた途上国等での遺伝資源の保全の重要性をテーマにしたセミナーを開催した。概要は以下のとおり。

セミナー名：「SDGs と植物遺伝資源の保全・利用促進セミナー ～私たちの食の未来を支える植物遺伝資源～」

日時：令和元年9月25日（水）13:30～15:45

場所：三田共用会議所 3階 大会議室

参加人数：一般参加者 54名、登壇者5名、関係省庁 5名、事務局 5名 合計 69名

内容：下記プログラムのとおり

時間	内容
13:30-13:35	開会挨拶 島田 和彦（農林水産省 農林水産技術会議事務局 研究総務官）
第1部：基調講演	
13:35-14:00	講演1「気候変動と植物遺伝資源について」 久保 牧衣子（農林水産省 大臣官房 政策課 環境政策室長）
14:00-14:05	質疑応答
14:05-14:30	講演2「ロシアにおける植物遺伝資源の保全と利用の歴史」 Dr. Aleksei Zavarzin（バビロフ研究所 副所長） Dr. Iulia Ukhatova（バビロフ研究所 研究調整課長）
14:30-14:35	質疑応答
14:35-15:00	講演3「植物遺伝資源を用いた開発途上国との農業研究協力」 長峰 司氏（国立研究開発法人 科学技術振興機構、 地球規模課題対応国際科学技術協力プログラム(SATREPS) 研究主幹）
15:00-15:05	質疑応答
第2部：パネルディスカッション	
15:05-15:30	■ファシリテーター 久保 牧衣子（農林水産省 大臣官房 政策課 環境政策室長） ■パネリスト（五十音順） Dr. Aleksei Zavarzin（バビロフ研究所 副所長） Dr. Kseniia Strygina（バビロフ研究所 研究員） 長峰 司氏（(国研)科学技術振興機構 SATREPS 研究主幹） 小関 敦氏（株式会社サカタのタネ 研究本部課長 遺伝資源室）
16:30	閉会

第1部の基調講演では、日露それぞれから、植物遺伝資源の保存・利用の取組について説明があった。久保室長より、植物遺伝資源の多様性は気候変動や人口増加等への対応や持続可能な社会をつくるために重要であると説明があり、気候変動に対応した品種改良の取組みや植物遺伝資源利用促進のための食料・農業植物遺伝資源条約（ITPGRFA）の多数国間制度の紹介があった。Dr. Zavarzin と Dr. Ukhatova より、バビロフ研究所の成り立ちと組織体制及び設備、バビロフによる植物遺伝資源収集旅行の成果、植物遺伝資源に係る現在の取組み・研究が紹介された。長峰氏からは、開発途上国での植物遺伝資源を用いた農業研究協力の必要性、農水省の資金提供による「海外植物遺伝資源の民間等への提供促進」プロジェクト」や、JICA と JST の共同による SATREPS で実施した開発途上国での作物分野における成果、植物遺伝資源を用いた開発途上国との協力の方向性について説明があった。

第2部のパネルディスカッションでは第1部の登壇者に加えて小関氏がパネリストとして参加した。久保室長の司会進行の下、植物遺伝資源の保全と新品種の開発及びアクセスの確保や、SDGs を踏まえた技術の持続可能性、及び開発途上国の発展のための若手人材の確保と育成の工夫、世界の90億人以上の人口を養うための作物の育種目標等についてパネリストから意見をうかがった。オープンアクセスは相互理解と信頼の醸成には重要であり、そのためには国際的枠組みの整備を行うことや相手国のメリットも考慮することが必要であること、ロシアでの若手人材育成の取組み、作物の多収性に関する遺伝育種学的研究が発展し多収性遺伝子などを有する作物品種が世界各地で育成されつつあることなどが紹介された。